東海支部発表原稿執筆要領

下記の実例を参考にして記載して下さい。
・字の大きさは9ポイントとし、斜体等飾り文字は必要最小限に留めて下さい。
・文字数については特に制限はありません。
・用紙はＡ４の白色紙である以外は自由ですが、縦置きで余白を上3ｃｍ，左右それぞれ2cm、下16cm以上あけ、縦10.5cm、横17cmの範囲に入るように記載して下さい。
・図表を挿入する場合はスペースの配分等に十分留意して下さい。
・表題は４文字分スペースをとり、５文字目から記載して下さい。
・発表者名はこれまでの規定にしたがい記載して下さい。
・英文のタイトルと発表者名は不要です。

実例

温度と硫酸アルミニウムがバラ切り花の品質保持に及ぼす影響

○安濃太郎[1]・和歌山三郎[2]（[1]野菜茶試・[2]和歌山暖地園芸センター）

バラ切り花の花持ちは温度条件により著しく影響され、高温ほど花持ちが短くなることが知られている。8-ヒドロキシキノリン硫酸塩（HQS）は水分状態を良好にすることによりバラ切り花の花持ち延長に効果を示す。一方、スクロース処理は、20℃程度の常温下で花持ち延長に効果を示すことが明らかにされている。そこで、高温条件下でバラ切り花の花持ちが短いことの原因を究明するため、20、25および30℃の３段階の温度を設定し、HQS単独およびスクロースとHQSを組合わせた処理がバラ切り花の品質保持、茎の水通導性および糖濃度に及ぼす影響を調べた。バラ‘ソニア’の切り花（長さ40cm）を200mg･l^{-1} HQSあるいは同濃度のHQSを含む30g･l^{-1}のスクロース溶液に挿した。対照には蒸留水を用いた。どの温度においても、HQS単独処理により花持ち日数はある程度延長した。一方、スクロースとHQSを組合わせた処理により花持ち日数は著しく延長した。相対切り花重量は温度が高くなるほど減少に転じるのが早くなった。どの温度でも、対照、HQS単独、スクロースとHQS処理の順で減少に転じた。スクロースとHQS処理はどの温度でも切り花重を著しく増加させた。茎の水通導性は、対照区では次第に低下したが、HQSを添加した処理区では水通導性の低下はほぼ完全に抑えられた。花弁の糖濃度は、収穫後３日目には処理にかかわらず増加したが、20℃の方が30℃よりも高くなった。スクロース処理は花弁の糖濃度の増加を促進した。葉と茎の糖濃度は、対照区では温度にかかわらず減少したが、スクロース処理により増加した。以上の結果より、スクロースとHQSの連続処理は高温条件下でもバラ切り花の品質保持に著しい効果があることが明らかとなった。HQS処理により水通導性の低下は完全に抑制されたが、スクロースとHQSを組合わせた処理に比較すると花持ち延長効果は小さかった。したがって、糖の供給不足がバラの花持ちが短い主要な要因の一つであると考えられた。

10.5cm

17cm